



15
1405
3

三絃考

目錄

神樂^{カグラ}の濫觴^{ハジマリ} 一丁左

樂府^{ウタヒツカサ}の歌及樂器^{ビガクキ} 一丁左以下

三絃^{サンゲン}の始^{ハジメ} 二丁左

三絃^{サンゲン}傳來^{デンライ} 三丁左以下

阮咸^{ゲンカン}及琵琶^{ビバ} 五丁左以下

高田早苗氏藏

昭和廿二年六月
高田早苗氏贈

五絃 ゴゲン 七丁右

蛇皮線 ジャヒセン 七丁左

三絃流行 サミセン リウカウ 七丁左以下

琵琶法師 ビハ ハウシ 八丁左以下

平家曲 ヘイケ ブシ 八丁左以下

浄瑠璃曲 ジャウリ ブシ 九丁左以下

三絃製作 サミセン ソクリ サマ 十一丁左以下

三絃の字 サミセン モジ 十二丁左

三絃の名處 ナドコロ 十二丁左以下

三絃の名目 ミヤウモク 十三丁右

三絃の和歌 ウタ 十四丁右以下

鼓弓 コキウ 十六丁右以下

馬尾胡琴 バビコ 十七丁左以下

引用書目

古事記

三卷。太安万侶。
和銅五年成。

日本書紀

卅卷
養老四年五月撰上

假名日本紀

卅卷

釋日本紀

廿八卷
卜部懷賢

舊事紀

十卷
偽書

舊事大成經

七十二卷
偽書

古語拾遺

一卷。齋部廣成。
大同二年二月成。

天書紀

十卷
偽書

類聚神祇本原

十六卷。寫本。
渡會家行。元應二年成。

元々集

八卷
北畠親房卿

八幡愚童訓

二卷

三代實錄 五十卷

類聚國史 殘缺六十三卷。

小右記 四十七卷。寫本。

台記 二十卷。寫本。

宇治左府賴長公。

神皇正統記 三卷

北畠親房卿

薩戒記 二十卷。寫本。

中山亞相定親卿。

平家物語 十二卷

太平記 四十一卷

延喜式 五十卷

倭名類聚抄 廿卷

源順朝臣

拾芥抄 三卷

洞院公賢公

日本紀竟宴歌 二卷

寫本

東遊歌 一卷

神樂歌 一卷

催馬樂歌 二卷

風俗歌 一卷

雜藝歌 一卷。寫本。

梁塵愚按抄 二卷

一條兼良公

古今六帖 六卷

後撰集 廿卷

拾遺集 廿卷

玉葉集 廿卷

新千載集 廿卷

新續古今集 廿卷

新葉集 廿卷

夫木抄 卅六卷

藤原長清

堤中納言集 一卷

藤原兼輔

平兼盛集 一卷

祭主輔親集 一卷

藤原頭綱集 一卷

大納言公任集 一卷

藤原相如集 一卷

散木奇歌集 十卷
源俊賴

小馬命婦集 一卷

嘉喜門院集 一卷

式子內親王集 一卷

拾玉集 七卷
慈鎮和尚

源氏物語 五十四卷

大和物語 二卷

今昔物語 廿八卷
寫本

俊賴口傳 一卷
一名無名抄
二卷寫本

袖中抄 廿卷
法橋頭昭

八雲御抄 六卷
順德院

藻塩草 廿卷
宗碩

徒然草 二卷
兼好

東齋隨筆 一卷
一條兼良公

衣之双紙 三卷
慶安二年刊

云波草 五卷
田中元陳
享保廿年成

昔々物語 一卷
寫本。新見正朝入道法入。
享保十七年成

南留別志 五卷
荻生茂卿

本朝世事談綺 五卷
菊岡沾涼

小窓雜筆 六卷
寫本。
荻原宗固

關秘錄 八卷
寫本。
柏崎永以

茅窓漫錄 三卷
寫本。
茅原良

玉勝間 十四卷
本居宣長

枕苑日涉

十二卷
村瀨之瀨

骨董集

四卷
岩瀨醒

南嶋志

二卷。寫本。
新井君美。

東海道名所記

六卷。淺井了意。
万治元年成。

江戸名所記

七卷。淺井了意。
寛文二年五月刊。

山城四季物語

六卷
延宝二年九月刊

江戸雀

十二卷
延宝五年五月刊

故郷帰江戸噺

一卷。寫本。
貞享四年六月成。

江戸名所咄

六卷
元禄七年刊

江戸總鹿子

七卷。松月堂不角。
正徳三年三月成。

江戸總鹿子新增大全

十二卷。奥村玄華。
寛延四年正月成。

市尹要覽

一卷
寫本

東都事蹟合考

五卷。寫本。柏崎永以。
延享年中成。

江戸砂子温故名蹟誌

六卷。菊岡比凉。
享保十七年成。

江戸志

十卷。寫本。
近藤義休。

節用集

二卷
林宗二

節用集大全

七卷
惠空法印

運步色葉集

四卷。寫本。
天文十七年九月成。

書言字考

廿卷。一名合類節用集。
模嶋昭武。

倭漢三才圖會

百五卷
寺嶋良安

名物六帖

卅卷
伊藤長胤

和甬雅

八卷
貝原好古

寶石類書

百卅二卷。寫本。
高橋若狹守紀宗直。

類聚名物考

三百四十二卷。寫本。
山岡侯明。

卧雲日件錄

原七十三卷。現存後方二卷。
相国寺壽星院瑞溪。

羅山文集 七十五卷

庭訓往來 二卷 玄惠法印

十訓抄 三卷

和事始 六卷 貝原好古

和事始正誤 二卷 寫本 伊勢負春

教訓抄 十卷 寫本 柏近真

體源抄 廿二卷 寫本 豐原統秋

胡琴教錄 二卷

栗田口猿樂記 一卷

淨瑠璃詞 十二段 小野通女

狂言詞昆布賣 一卷

系竹初心集 三卷 中村宗三 寛文十二年刊

大怒佐 一卷 元禄十二年刊

紙鳶 三卷 元禄十二年刊

新曲唱歌 一卷 元禄十二年刊

本手破手唱歌 一卷 元禄十二年刊

松之葉 五卷 元禄十六年六月刊

律呂三十六聲 五卷 或号麓之塵 享保十七年三月成

濱千鳥 一卷 或号三味線獨替古 宝曆十二年七月刊

七十一番職人歌合 三卷

吾吟我集 十卷 石田未得 慶安二年四月成

雅逸醉狂集 八卷 正親町一位公通卿

竹齋物語 二卷 天和三年三月刊

姚櫻 缺本一卷 元禄五年正月刊

周禮 四十二卷 後漢鄭玄注 唐賈公彥疏

古文孝經 一卷 漢孔安國注

禮記 七十卷 後漢鄭玄注 唐孔穎達疏

說苑 廿卷 漢劉向

白虎通

四卷
後漢班固

北史

百卷
唐李延壽

隋書

八十五卷
唐魏徵

舊唐書

二百卷
後晉劉昫

唐書

二百廿五卷
宋歐陽修宋祁

宋史

四百九十六卷
元脫脫

杜氏通典

百九十六卷
唐杜祐

文獻通考

三百四十八卷
宋馬端臨

通雅

五十二卷
明方以智

事物紀原

十卷
宋高承撰。無名氏補。

三才圖會

百六卷
明王圻

本草綱目

五十二卷
明李時珍

白氏長慶集

七十一卷
唐白居易

升菴外集

百卷
明楊慎

夢溪筆談

廿七卷
宋沈括

五雜俎

十六卷
明謝肇淪

日本風土記

五卷
全浙兵制附錄

中山傳信錄

六卷
清徐葆光

皇宋事實類苑

或号皇朝類苑。七十卷。
宋江少虞。

事林廣記

十集。九十四卷。
元陳元靚。

事文類聚

二百卅六卷

潛確類書

百廿卷
明陳仁錫

類書纂要

卅三卷
明璩崑玉

圓機活法

廿四卷
明王世貞

格致鏡原

百卷
清陳元龍

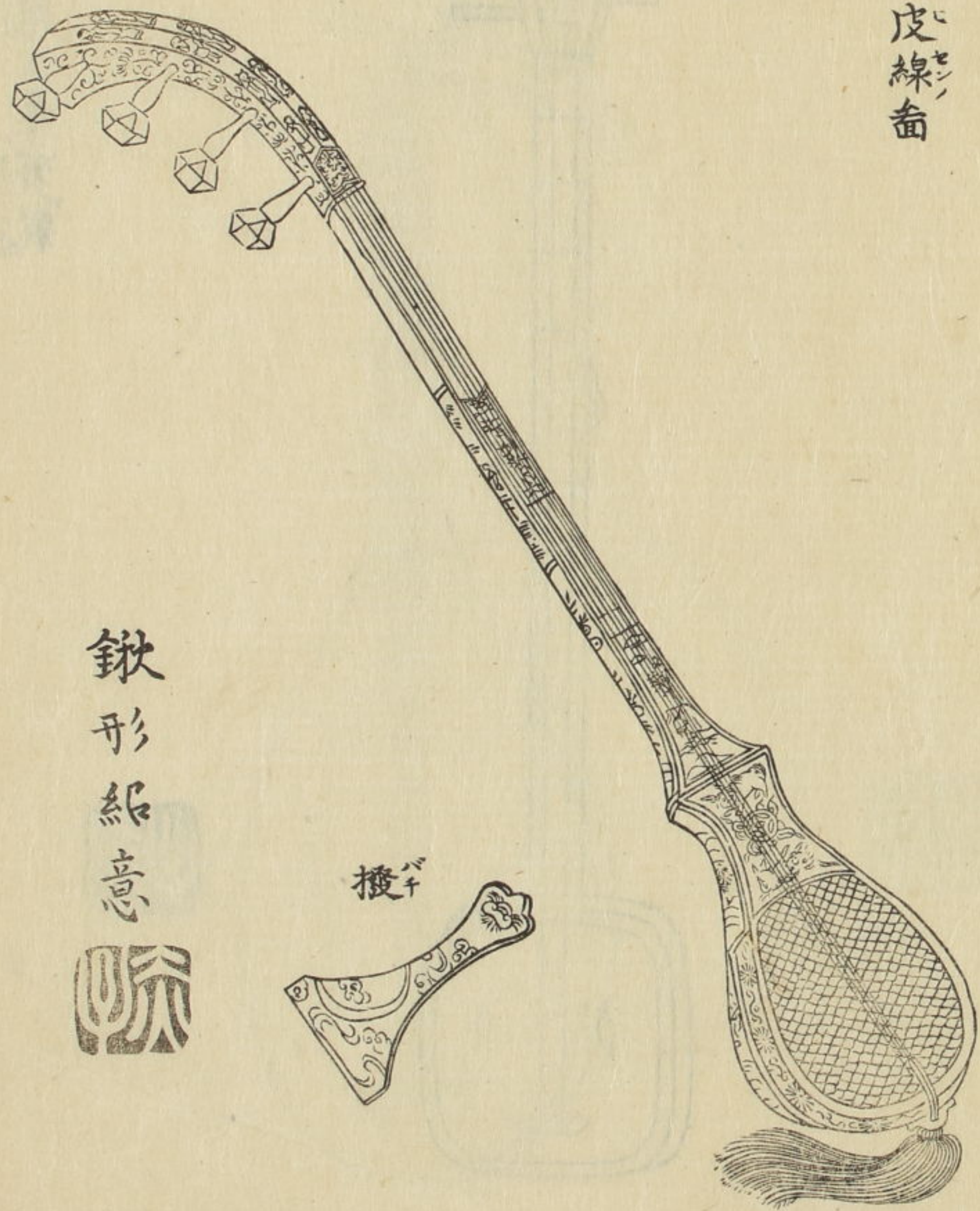
佩文韻府

百六卷
清康熙帝勅撰

通計百四十五部

此部之器
皆由松籟
所製其
形制不一
而音韻
則同
其用
則廣
其
名
則多
其
數
則
百
四
十
五
部
也

府内侯蔵
琉球製蛇皮線畚

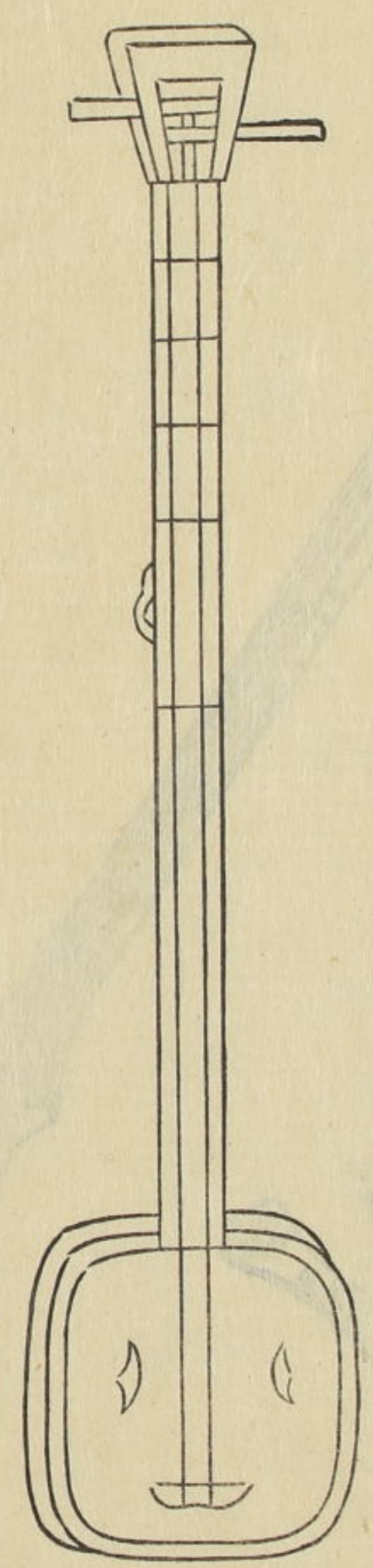


欽形紹意

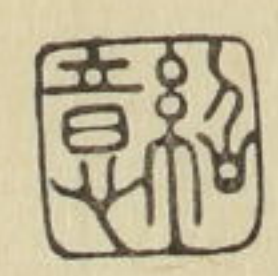
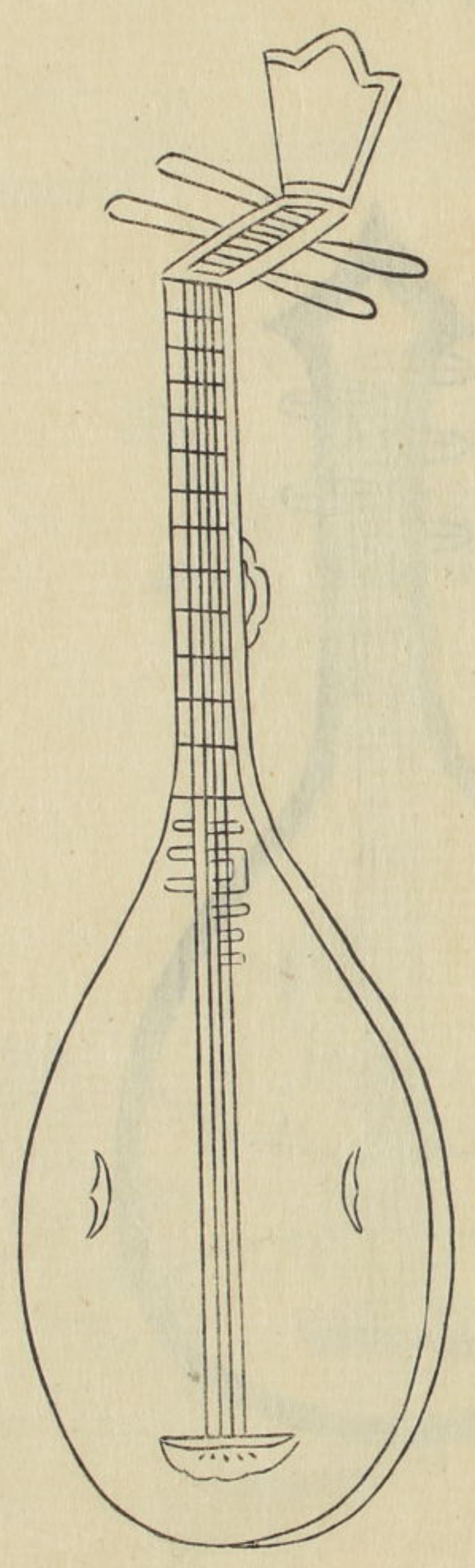


松屋齋三才圖會

三才圖會器用三卷所載
阮咸ゲンカン笛



三才圖會器用三卷所載
琵琶ビバ面

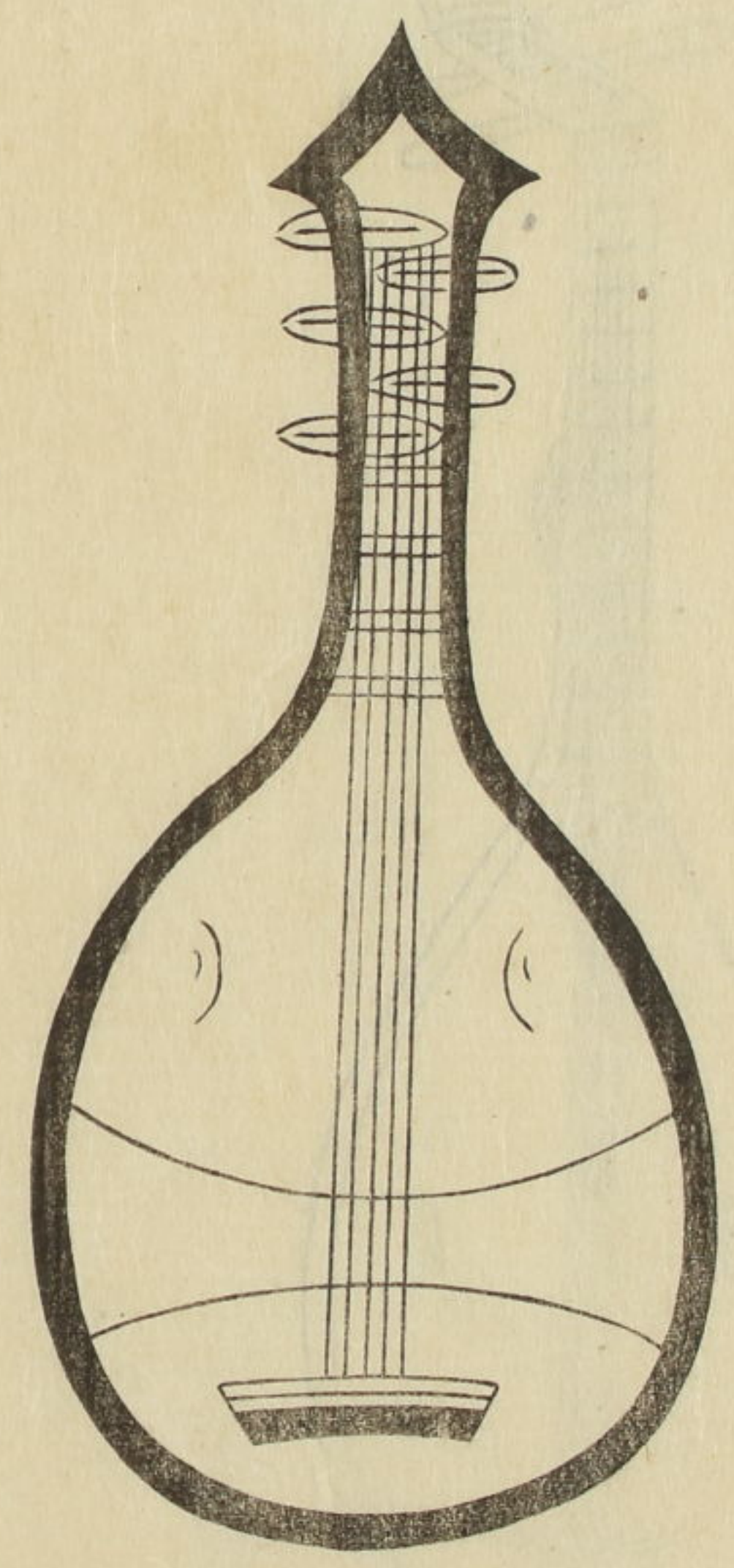


松屋齋三才圖會

圖二

松屋齋三郎

體源抄八之本卷所載
五絃圖



三絃古圖

東海道
名所記
卷四番



江戸名所記卷四番

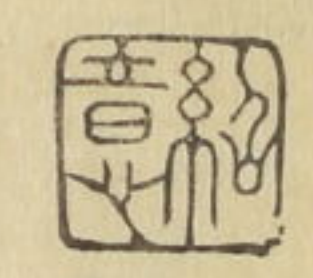
東海道名所記卷六番



松屋齋三郎

三郎

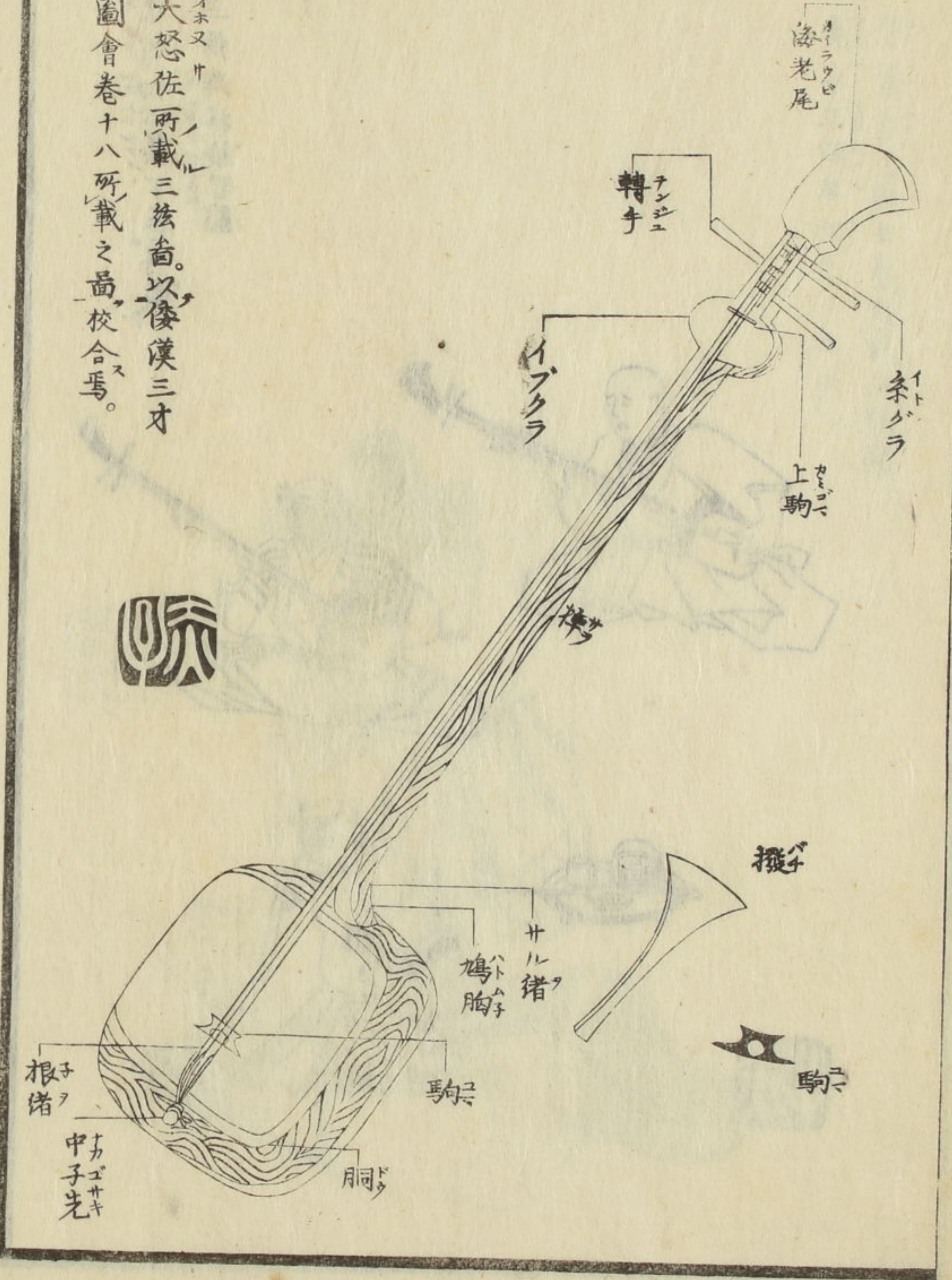
骨董集上編中卷所載三絃圖。
寛永正保年間之古画云々。



糸竹初心集下卷所載
三絃彈操練習圖

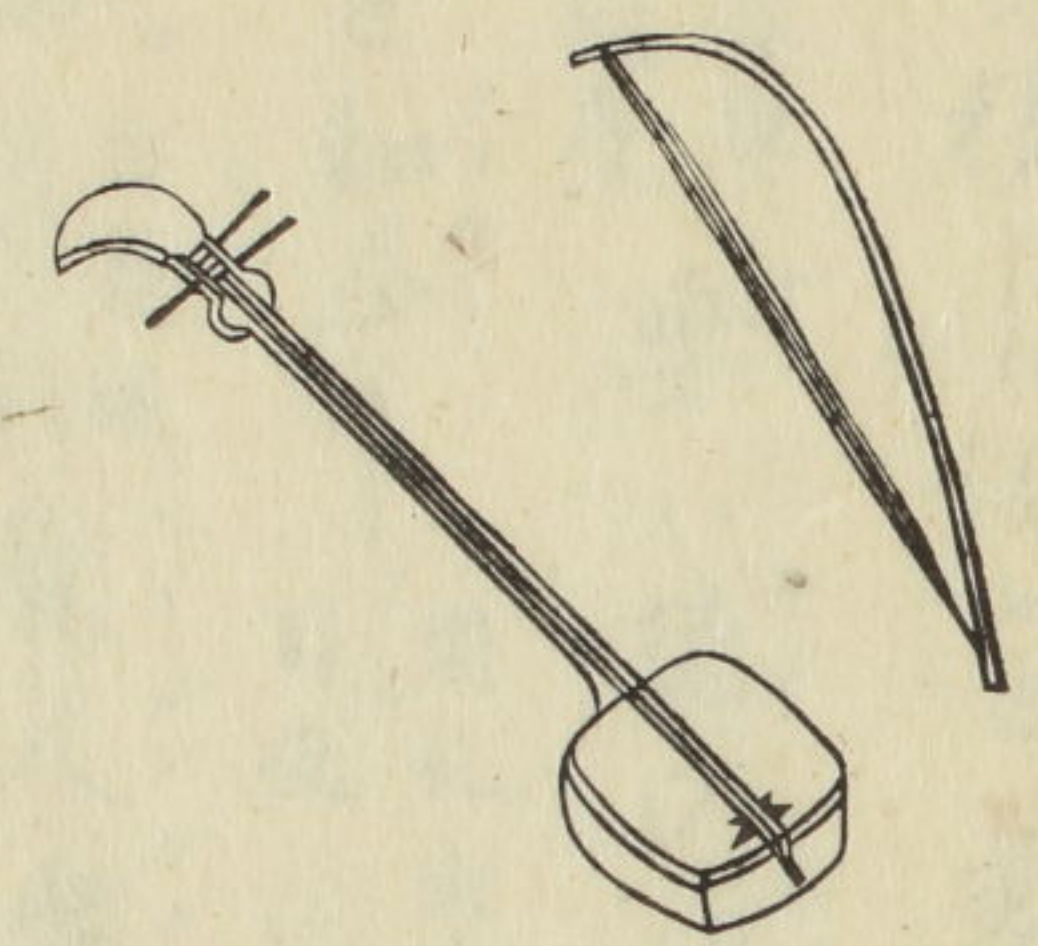


オホ又サ
大怒佐所載三弦曲。以倭漢三才
圖會卷十八所載之曲。校合焉。



鼓弓圖

骨董集上編中卷所載。
寛永正保年間之古曲也。



倭漢三才圖會
卷十八所載





三絃考

東都

源與清著

風と移一俗と易るハ樂より善はぬ一。礼記

樂記孝經 樂ハ徳の風。說苑修徳 徳ハ華上同にて民

情と和心一。周礼大司徒 邪惡と蕩條せしむるゆ

ゑ小。白虎通 聖人樂器と造り樂章を撰エラび。

樂府と置いて古凶軍賓嘉の礼儀にモテ用

和歌集卷第三

ひ政教治道の助とせり天照大神天石窟に

幽居より時八百万神等俳優いたしひ

と起源にて。舊事紀二古事記上。神代紀上。古誤拾遺。類

書記三。日本紀竟宴歌上。釋日本紀七。神皇正統記上。類聚神祇本原六。元々集三。栗田口猿樂記。體源抄十の本卷。和事始五の卷。和事始正誤下卷。とらゝとせり神樂と。神樂の監饗とらゝといふ。神武天皇

の神代より後の樂府歌とせり記紀に載

らゝたる東遊神樂催馬樂風俗雜藝葦柄

今様神哥より田樂猿樂白拍子傀儡

子。師子舞。琵琶法師縣御子。咒師。侏儒舞。

子。秋万歳。傾城。幸若。能狂言。歌舞妓。丹前。

柴垣。小唄。念佛。躍や子。躍など。雜樂。は

とくに行き。天竺。大唐。高麗。新羅。は類

の夷部樂もぬよりありて。それを用

樂器。鈴。鐸。方磬。銅。鉸子。琴。瑟。箏。琵琶。新羅

和歌集卷第三

一

琴阮咸箏篳篥日本琴ゴト。ゲンカン。ク。ユ。ヤマト。ゴト。セツ。サウ。ヒチリキ。ヨコブエ。ヤマトブエ。
 簫長笛フエ。ナガフエ。チウクワン。サウハチ。マクモ。シヤウゴ。ヅミ。オホツミ。スリツミ。中管尺八チウカン。ハチ。莫牟鉦鼓モム。シヤウゴ。ヅミ。オホツミ。スリツミ。大鼓オホツミ。スリツミ。羯鼓カッ。ユ。フリツミ。ユシツミ。ヒヤウシ。腰鼓ヒヤウシ。拍子リウ。ゴ。輪鼓リウ。ゴ。編木子サ。ラ。ふフタクサ。イデキ。サミセン小連イト。チカキヨ近世サミセンにありて三絃鼓コキウなり
 二器フタクサ。イデキ。サミセン出来三絃ハ殊コト天下アンノシタの士女フトコランナ。ユノミモテア好弄イマびてい
 たりサミセンとらぬ郷サトなり。六シヨウ。アン。ダウ。イ。シフ开奄外集サ。一。に。イマの卷の卷に今
 之三ノサン。ゲンハ。ハジメル絃ゲン。トキニセウ。ガシ。ユトバニ始ノ於元時ゲン。トキニセウ。ガシ。ユトバニ小山ノ詞ク。サン云三絃ゲン。ギョク。シ。サウ玉指ユ。シ。サウ雙ハ

鉤州コウ。サウ。ジ。ダイテ。オクル。ギョク字題贈玉娥ガ。ジニ兒ニ云五ゴ。ザツ雜組ツ。十二の卷に。又
 有所謂三絃者アリテ。イハ。ユル。サン。ゲン。ト云モノ。ツチニ。アハセテ。セウニ常合ヒク簫而鼓之ヒク。然多。嗤。哇
 之詞コト。シヤウ。イウ。ノ。トコロ。ナラフ。ノミ倡優之所習耳ツタ。ガ。サ。の。卷。樂器部。に。今云通雅ツタ。ガ。サ。の。卷。樂器部。に。今
 之彈三絃者ヒク。サン。ゲン。ラ。モノ。ハジ。メ。タ。シテ。ヒト。ラ。フ。キ。セウ。ラ。サ。ダ。ン。シ。ラ。フ。サン。タ。ン。ホリ。キ初亦使人吹簫シテ。ヒト。ラ。フ。フ。キ。セウ。ラ。サ。ダ。ン。シ。ラ。フ。サン。タ。ン。ホリ。キ定調散彈サ。ダ。ン。シ。ラ。フ。サン。タ。ン。ホリ。キ小
 絃以合フ。モテ。アハセ。セウ。ノ。ナカ。ノ簫中伊字イ。ニ。シカ。ノ。ノ。チ。サ。ダ。ン。シ。ラ。フ。ベシ。モテ。ガツ。ク。ス。云。然後定軫サ。ダ。ン。シ。ラ。フ。ベシ。モテ。ガツ。ク。ス。云。可以合和モテ。ガツ。ク。ス。云。
 皇國ミコク。ニ。サミセン。ヒト。モ。ギリ以三絃ニ。サミセン。ヒト。モ。ギリ一節ヒト。モ。ギリ切ヒト。モ。ギリ
 器キなり。琉球リウ。キウ嶋ジマにも傳ツタへたりけんチニツ。ガシハ中山チニツ。ガシ

傳信錄 六の巻 に。三絃 柄比 中國短三寸餘 ハシキヒクニタハモチフヒトサシモラ 彈撥 ハシキヒクニタハモチフヒトサシモラ 惟用食指 云々 南嶋志 下禮形部に凡 燕會備樂樂有國中 中國二部 國樂其唱 エニクワイニフナフガクラ。ガクニリコクナユウトカラクニトフタ 曲則如我里 其器則三線子云々 同 ゴトクオホヤトクテラウタヒン 風俗部に。俗好聲樂 皆弄三絃 相傳以為 ツルヒミキ 絃響能避蛇害 云々 琉球より皇國にも傳來 コトクオホヤトクテラウタヒン 祿年間 コハ 亦 リウキウ 琉球より皇國にも傳來 ミクニ

一 ミシヨノスエ ちん。そは明末に。倭寇防禦のため コウ として撰 エラビ 全浙兵制附録 日本風土記 四の巻語言 に。三絃子 三皮前 三びせん キヤウチヤウ 慶長寛永 エ 比 コ ち ツク 伝 ツク り ツク けん ツク と ツク れ ツク が ツク ける ツク 狂 キヤウ 言 ゲン 昆布賣詞 一の巻 狂言記外 モトモ 尤 モトモ 之 モトモ 双 サウ 紙 シ 下巻ひくもの条 吾吟我集 序文及 春部 サミセン 三 サミセン 絃 サミセン の サミセン 名 サミセン れ サミセン る サミセン 也 サミセン 漢土 カラクニ 亦 オハサ 隋書 シヨ 律曆 志

此類ヲ載テ。

此代^ヨより起るなれど。今の元^{ガシ}製^{セイ}の三^{サン}弦^{ゲン}

卷四の
に。
元^{ゲン}
史^シ
事^シ
物^{ブツ}
紀^キ
原^{ゲン}

弦ゲン子シ記キ席セキ上シヤウ腐フ談タン輟テツ耕カウ錄ロク帝テイ城シヤウ景ケイ物ブツ略リヤク天テン

禄ロク
 識シキ
 餘ヨ
 事ジ
 物ブツ
 異イ
 名ミヤク
 丹タン
 鉛エン
 錄ロク
 五ゴ
 雜ザツ
 組ソ
 通ツウ
 雅ガ
 通

志。琵琶錄。初學記。樂府雜錄。中山傳信錄。

と引て。三絃此云沙彌線一名渾不似。一

名胡コ不フ兒ジ。一名火クハ不フ思シ。一名虎コ拍ハ詞シ。一名

虎コ拍ハ思シ。
一名琥コ珀フ思シ。
一名虎コ撥ハ思シ。
一名胡コ

撥^ハ四^シ。一名吳^コ撥^ハ四^シ。皆一音之轉訛^カ耳^リ。渾^コ不^フ

似^シ之^ノ目^メ頗^{スル}古^ク而三^三絃^ノ之^ノ名^ハ乃^ナ始^ル于^ニ元^元時^ニ云^云

此説たがへり。三弦シンニ元
時ニは始ラて製ケンせしテウトなり。
秦シンニ謂ヒ之ニ
絃ケン鼓テウト魏ガ晉シンヨリ以コノ來カタ
謂ヒ之ニ

秦漢子宋人謂之瑟琴者即今之三絃也

云ふ。と論^{ロウ}じいゝた^イゆゑ。轉^{テン}引^{ビキ}の誤^{アヤリ}も^ノ引^{ヒキ}

出^{イデ}書^シもの説^{セチ}いふぞやねばゆるふ^フ何^{ナニ}
 事^{コト}をうけ^{ウケ}ぐく^{グク}。渾^{コン}不^フ似^ジ。絃^{ケン}鼓^コ秦^{シン}漢^{カン}子^シ瑟^{セイ}琴^{キン}。
 今^{イマ}の三^{サン}絃^{ケン}といへるも後^{キチ}に^ニ。六^{ロク}元^{ゲン}時^{トキ}
 阮^{ゲン}咸^{カン}琵琶^{ヒバ}。ふりて製^{ツクリ}出^{イデ}しもの^{モノ}と云^{イハ}ふ。されバ
 轉^{テン}手^{ジュ}。海^{カイ}老^{ラウ}尾^ウなど。それ^{サレ}幹^{カン}全^{ゼン}同^{ドウ}と云^{イハ}ふ。やうて
 琵琶^{ヒバ}れ名^ナとを用^{ヨウ}し^シたり。此^{コノ}巴^ハの所^{ショ}名^ナハ。体^{タイ}源^{ゲン}抄^{シャウ}ハの^ノ阮^{ゲン}咸^{カン}
 秦^{シン}代^{ダイ}の器^{モノ}にて琵琶^{ヒバ}れ始^{ハジ}たり。琵琶^{ヒバ}の由^ユ来^{ライ}ハ教^{キョウ}
 訓^{クン}抄^{シャウ}一^{イチ}の卷^{クワン}。体^{タイ}源^{ゲン}

抄^{シャウ}ハレ本^{ホン}卷^{クワン}。宝^{ホウ}石^{シツ}類^{レイ}書^{ショ}廿^ニ四^シ。類^{レイ}聚^{キュ}
 名^ナ物^{モノ}考^{コウ}樂^{ラク}部^ブ六^{ロク}。なにより^{ナヨリ}こし。晋^{シン}竹^{チク}林^{リン}七^{シチ}賢^{ケン}の阮^{ゲン}咸^{カン}が
 弾^{ヒキ}る器^{モノ}なるゆゑさる名^ナと得^エたり。そと唐^{タウ}書^{ショ}。
 廿^ニ一^{イチ}の卷^{クワン}礼^{レイ}樂^{ラク}志^シ十一^{ジュウイチ}。杜^ト氏^シ通^ツ典^{テン}。百^{ヒャク}四^シ十^{ジュウ}四^シの卷^{クワン}。文^{ブン}献^{ケン}通^ツ考^{カウ}。
 二^ニ百^{ヒャク}廿^ニの卷^{クワン}元^{ゲン}濤^{タウ}傳^{デン}。杜^ト氏^シ通^ツ典^{テン}。樂^{ラク}部^ブ四^シ。絃^{ケン}の条^{ジョウ}。文^{ブン}献^{ケン}通^ツ考^{カウ}。
 百^{ヒャク}廿^ニ七^{ジュ}の卷^{クワン}樂^{ラク}。白^{ハク}氏^シ長^{チャウ}慶^{ケイ}集^{シツ}。廿^ニ三^{サン}の卷^{クワン}。事^ジ物^{モノ}紀^キ原^{ゲン}。二^ニ
 考^{コウ}絃^{ケン}之^シ属^{リョク}部^ブ。卷^{クワン}樂^{ラク}舞^ブ。事^ジ文^{モン}類^{レイ}聚^{キュ}。百^{ヒャク}廿^ニの卷^{クワン}。三^{サン}才^{サイ}圖^ト會^{カイ}。器^キ用^{ヨウ}本^{ホン}
 聲^{セイ}歌^カ部^ブ。草^{ソウ}綱^{コウ}目^{モク}。廿^ニ一^{イチ}の卷^{クワン}東^{トウ}果^カ。潜^{セン}確^{コク}類^{レイ}書^{ショ}。七^{シチ}十^{ジュウ}九^クの卷^{クワン}。類^{レイ}書^{ショ}
 部^ブ。荔枝^{リチ}の条^{ジョウ}。部^ブ。事^ジ林^{リン}廣^{コウ}記^キ。戊^{ボウ}集^{シツ}ハ。升^{シヨウ}奄^{アン}外^{ガイ}集^{シツ}。廿^ニ
 部^ブ。纂^{サン}要^{エウ}。音^{オン}樂^{ラク}部^ブ。事^ジ林^{リン}廣^{コウ}記^キ。戊^{ボウ}集^{シツ}ハ。升^{シヨウ}奄^{アン}外^{ガイ}集^{シツ}。廿^ニ

松屋齋三郎

六

の巻器用

音樂部

通雅。

廿の巻
樂器部

回機活法。

十七の巻
音樂門

佩文韻

府。廿の巻
咸韻

格致鏡原。

四十六の巻
樂器類部

なごにええて。異

名を月琴とて。

摘阮とも。

双韻とも。

皇

國にも

延喜式。雅樂
和名

類聚抄。

拾芥抄。

上末卷

れ類

古書所見

枚舉とて。体源抄十一の末卷に。阮咸ト云ハ調子ノ異名。
琵琶ノ風香調ト同音也。ともいふも。

四弦十三柱たり。

唐太宗の

一弦と

加へ

と

これ

とば五弦とて。

文獻通考

百廿七

に

え

え。

三代實錄。

廿六の巻
職官部

ハのちどに五弦とて。

これなり。

北史倭國傳

九十四の巻

小。

樂有五弦琴笛。

といへるハ撰者ガ

唐代に皇國ハ風俗とて傳へて誤記なり。

るべし。

大怒佐。

一の

松之葉。

序

書言字考

七の巻

樂部

類聚名物考。

六

ちどに

說より

れ

正親町

松屋齋三郎

六

院の永禄年間琉球より

蛇皮線

蛇皮琵琶の名。唐書礼樂

志十一。文献通考百卅七の卷。二絃

文献通考百卅七の卷。樂考。俗部。二絃琵琶。四隔一孤柱。釋名曰。推手。

前。琵琶引子。却曰。琵琶。二絃。形如琵琶。宋史樂志。始製二絃之琴。以象天地。謂之兩儀琴。云々。茅憲漫錄。上にも。二絃の圖を載たり。

とほく。和泉國堺津に琵琶法師中小路

といへる瞽者に。人のそせーと。中小路甚く

愛て朝夕にもよさくそせーと。それ調をと了こと

りともいへ。故小初瀬の親者よ一七日糸結

て祈禱し。吾等の示をも蒙て階をと下るをり。

大中小の三線足にうきもつたりたるを得て。

蛇皮線にかけてきく。遂小微妙蛇色音

を弾出ぬ。府内侯の蔵。四絃蛇皮線の古物なり。轉手も左方子のも

れ後瞽者虎澤。頗妙を得て。本々破々きと

り調子と定て人ふは。瞽者澤住。此より

とほく。歌謡に合せて弾初より。世に

貴威權キセキケンモン門ふりてやされツビ遂にケンゲタ檢校の職シヨク
 と得エ。柳川八橋二流の祖となれり。三弦サミセン工に
 柳川八橋といふナ稱ナあるも。こはフナリ西檢校にありと
 といふなりといへり。元禄タカラれ頃。浅利アサリ檢校ケンゲタ佐山
 檢校ケンゲタ出田イツタ檢校ケンゲタ市川イチカハ檢校ケンゲタ朝妻アサヅメ檢校ケンゲタ藤嶋フジシマ
 勾當コウタウ小野川コノノ檢校ケンゲタ三橋ミツハシ檢校ケンゲタ藤永フヂナガ勾當コウタウ熊クマ
 川ガハ勾當コウタウ松澤マツザハ勾當コウタウ木崎キザキ勾當コウタウ早崎ハヤザキ勾當コウタウ豊トヨ

田ダ勾當コウタウ清田キヨタ勾當コウタウ倉橋クラハシ座頭ザトウ岩崎イハザキ檢校ケンゲタ豊トヨ
 橋ハシ勾當コウタウ連川ツレガハ勾當コウタウ安數アス川座頭カサザトウなどナニ上ウヘ
 京大坂江戸に競キョウ起キりて。唱歌シヤウカといふなり。
 新曲シンキョクも彈ヒキ出イデて。大よその風フウになれり。長唄ナガウタ
 投節トウセツ。うりうり。はなはな。出来イデキ。うりうり。まゝ
 糸竹イトタケ初心集シンシンシフ下カにハ。文禄ブンロク年間ノコ石村イハムラ檢校ケンゲタ琉リュウ
 球島キウジマに渡り。三弦サンゼンのコ弓キウも得エて。歸カヘり。京都ミヤコ

にて三味線と作出ツクリイダやうといひ。律呂三十

六聲セイ序イにハ。後柏原院ミヨ御宇。梅津少將ツグシヤウと

り人レ傳ミ未ミ彼島カノシマに漂泊サスラヒゆと。小女コメに學得マナビエら

ゆレうレ即琉球組スナチリウキウグミなりといふ。此等の説いふはむ

れ名。竹麿物語よりええて。寛文。延宝。天和。などの項の人と

の製作ハ。倭漢三才圖會ツクリザテの卷ハに。其棹サハラ以テ花

欄木リシノキヲ為シ上シカミト如鉄刀木キタガヤサン紫檀シタシ最愛モスモクノ標ヨキラ之美クハノ桑

木次キツグ之ニ櫛木カシノキヲ為ス下品シモノシナト其皮皆以テ猫革ネコカハ八乳ヤツヤナル

者ラ為シ良狗子皮ヨシト。イヌノカハラ為ス下シモトといひ。東海道名所記。

四の卷。江戸名所記イットタケシヨシン。系竹シ初心集シフ。下山城カハノヤツヤナル

四季物語スノ。首ハ江戸雀スノ。三の江戸名所記ノイシヨバナシ。咄ハナシ。六の

姥櫻ウバサクラ。一のオホヌ大怒佐サ。首ハ云イハ波草バグサ。三のコツ骨董集トウシフ。上編中。卷

ちとにそれ圖えゆ。今様イマヤウ體カタチは古近江コナエ

といふ。三弦工サミセンヤが所為シワガなりとぞ。骨董集上。今

此製作別にていふくとをなすべし。
ツクリガマコト
モジ

倭漢三才圖會十八和爾雅五名物六帖器
財筭三書言字考器財門律呂三十六聲一。

系竹初心集上。同下。大怒佐一。故

鄉歸江戶咄節。

書カ名ナ處トコロ

調なりと云ふあり。かろてあやまれし。轉^ル軫^{ギン}と書^ク云^フ。按^ニ。轉^ル軫^{ギン}の字物に見
ゆ。楊子太玄經^ニ。軫^{ギン}轉^ル其道^ニ。と有り。字典に。琴下轉^ル絃^{ゲン}者。謂^フ之^ヲ軫^{ギン}云^フ。
棹^{サヲ}。

鳩ト
胸ハ子
洞ド

留^ル
乎^ヲ
祢^子

二ニ
三三
廿

三

踊菅 ヲトリ スゲ 子 カサ

子^シ
踊^{ヲドリ}
也。

ホニテ。
本子
破ハ

えづ組。ぬゑやう組。あゝ組。とゝ組。乱後
 夜。揺上。もやふ絲。名よせ組。さゝい組。中島
 組。ちうはふちう。新曲裏組。力草。此類の
 名目。琴一節切。此合せやうちど。系竹初心
 集。大怒佐。紙寫。本手破手唱歌。新曲唱歌。
 松之葉。濱千鳥。律呂三十六聲。にくもく
 記。たり。歌ふよめるも。正親町一位公通卿の

雅^ガ筵^{エン}醉^ス狂^{キヤク}集^{シフ}上^上に。柳露。

棹^{サホ}娘^{ヒロ}もひくやととどけいと柳おぼろゝ
 風のゆりかん。左注。三線にゆりかんといふ秘傳
 りるよりなり。棹^サふ氣^キを付^ツべー云々。按子棹に佐保姫

名^ナ遠^{エン}これど。その例ハ巴^ハは樂章類語抄の附言に。古今六帖。大和物語。拾遺
 集。後頼口は。袖中抄。小馬命婦集。堤中納言集。後撰集。ちびりていひたり。

春^{ハル}清水^{ミヅ}は^ハ淵^{フミ}の下^{モト}にて。

清水のきりもみとらの糸あふふきにいふ

べようぐいほのち。まゝ同上為山の花見にま
かりけるふ。うゝある人とみえーが。戸無トナセの辺
に舟と留トモめて。めーぐーたるサトウ辰サミ辰センに三味線ひ
かせ。酒くみて何そび居けまば。

あれもさうう。世の山とらほーたり極よか
る三味れいとどら。左注ふ。新千載。後宇多院。
あゝー山れもさうのやうほとらん様よう

るたきれあゝいと。左注ふ。小コウタに吉野山とらふ

何り云々。按。新千載の序。モトヲリノリナガ本居宣長タマカツが玉勝タマカツ間マ七シれ

に。ある人の今世よ何まひくめて何そある
さみせんコトとふコトをコトかたたるエ絵ふ。あうみそか
けとこひる。そハ今様イママサれとさきたる物にて。い
ふくおれむとさうなと。いやーむとさう
れものおれバ。いふさやかこもさうさくおほえ

これどもいふがうた人のふとちりけき。
いふいせんふ。よみて書けうた。

此かやいふく人よみはのそれとほのち
べもふひくやと。俗の人はいふくもんをう

はねとちりけき。あふさくものうた。未得

の吾吟我集春に。柳。

ささのさほのほべれ系柳移と何と

しと浪をよせひく。三弦れ変解に鼓弓何

り。倭漢三才圖會十八の卷に。鼓弓。按未詳其始。

形似三弦而小。不用撥以小弓。絃鼓之故。

名鼓弓。其音最悲哀者也。勢列宇治乞弓。

每鼓之。謠矣。相傳鼓弓始於南蠻彼土人

行住每鼓之。以避蛇蛇。云書言字考七此卷

に。鼓弓三線之類云。系竹初心集下に。柳日

本に三味線とひと初^{ハジメ}事ハ。文禄の頃。石村
 檢校とふ琵琶法師あり。いなくみふて。器^キ
 用無^{ヨク}双^{フタツ}者あり。ある時琉球島ふりけるに。
 彼島に小弓^{コキウ}といひて。糸三筋にてなる人物
 あり。小弓に。馬尾を弦^{ツル}ふけて引られバ。
 小弓といふも。石村是とさぐりみる。琵琶
 とやけきなる物也。糸のちるべやうも。一二は

比巴のおとく。三の糸ハ比巴れ三よりも二調子^{フタテウシ}
 ほどたうくゆるむるもの。とあり。所の
 者いひけるハ。此島真蛇^{マムシ}はねはるふなるが。うへ
 いとふものありて。此まむしを食物とす。され
 むらへいれをくこふ。小弓れ音に少も遠^{トホ}ざる
 ゆゑ。真蛇^{マムシ}とありぞけんがふ小專^{モハラ}ひく云々。江
 戸名所記^{四の}に。三味線鼓^{コキウ}弓引^{キウ}なること云々

うたひ云々。竹齋物語上。小。挿女イウダヨイウクシ挿君イウダヨイウクシの侍

りて。目くく人々打も。ちやみせんこきう

にあや竹ダクや。ちくくそるその中に。石村イハムラ校ケン

校ゲウもあつて。おれ調子テウシとわけよく云。狂

記キふふうりにもあやみせんとちり。左と延れを志也にて同語。左サと志也シ也ヤ。ちやみとく類なり。ちやみとく類なり。

其圖倭漢三才圖會十八。骨董集上編。中卷に載

る。按。夢溪筆談五の卷。邊兵得勝回則連隊。

抗聲アゲテユエラ凱歌ガイカスル古之遺音也オニミハ。凱歌詞甚多オニミハ。皆市井鄙俚

之語ゴ。予在廊延時フレイアリシマク製教十曲キョウカ。令士卒歌之シ。今粗記キ

得數篇トクス云々。其三馬尾胡琴ビンコキン隨漢車シカフカンノクルマ曲聲キョクセ猶自怨

單于センウ。竊ヒイテ弓莫射ユミラナレ雲中雁ノカク。キガシ。雁如今不寄書バ。皇朝シ

十九曲シウ礼音律部レ凱キ。と見え。馬尾胡琴ハ。今ハ胡

弓キウに馬尾ムベノヲと用るに叶カフ。これちんふ

胡コ弓キウも漢時カンノヨハ。器モノともべ。そもく今ハ俗人ヨヒト

松屋業之三郎

一。中ナカ小コ三サミ絃セン第一イチ

とろろ。飲食

ハ
鄭テイセイ
声

心ココロ
小
合カキ

道ミチに移ウツ

平ヘイ天テン下カ器キ

ん。
そ
い
樂^{ガク}
章^{シヤウ}

ブンゴ
メリヤス長
シタ
義太夫
などの文をよみ

とろろ餅あり。

君子

大意

五

卷之六

立タチ タチ
木
く

美都

松屋集卷三終

三

松屋集卷三終
三

文政九年六月

門人 仁戸

向官升芳
林 竟臣 全校

